

国際理解出前講座



私の故郷の国

～フィリピン・イリガシティ～



講座のあとは、フィリピンの音楽にあわせて、2本の竹を使ったバンブー・ダンスが披露され、生徒にも体験してもらいました。竹の動きにあわせてステップをふむのが難しいようで、最初はとまどっていましたが、最後はたくさんの生徒が体験して楽しんでいました。

11月8日（金）置塩中学校で全校生を対象に、フィリピン出身の田守純菜さんが「私の故郷の国」と題した講座を行いました。

まず初めに、田守さんが姫路市文化国際交流財団の活動を通じて知り合った、様々な国出身の友人を紹介し、多様な文化に触れることが大事だということを語られました。

その後、地理、国旗、学校生活、食べ物、自然など、フィリピンの概要が、たくさんのスライドとともに紹介されました。

学校の紹介の時には「反抗期」という言葉が出てきました。日本でよく使うこの言葉はフィリピンにはないそうです。子どもがきちんと自分の意見や好みを伝えられ、親も子どもの意志を尊重するから、ということです。

親が貧しくて苦労している子どもほど、親を助けようと勉強を頑張るという話も印象的でした。

《バンブー・ダンスを披露》

